

# PHD LETTER

## 97

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

2005.12

- 夏のスタディツアー報告
- 研修生&帰国研修生レポート
- 連載シリーズ「どうせ買うなら、使うなら」

PHD運動とは1962年より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上国で医療活動に従事した岩村昇博士の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和づくり (Peace) 健康づくり (Health) を担う人材をつくる (Human Development) 運動を世界中にひろめることを目的として、1981年からはじまりました。

発行：財団法人PHD協会 理事長 今井 鎮雄  
編集人：藤野 達也  
住所：〒650-0022 神戸市中央区元町通5-4-3  
元町アーバンライフ202  
TEL 078-351-4892 FAX 078-351-4867  
E mail：phd@mb1.kisweb.ne.jp  
U R L：http://www.kisweb.ne.jp/phd  
定 価：100円  
郵便振替口座：財団法人ピー・エイチ・ディー協会  
01110-6-29688



これは「ほっとけない世界の貧しさ」  
キャンペーンのホワイトバンドでは  
ありません。  
ファニー・プーケエンといいます。  
タイでは昔から旅立つ前に道中の安全やこれ  
からの幸せを祈って、手首に木綿の糸を巻い  
てもらいます。  
このお坊さんも、これから町へでかけます。

タイ・チェンマイ県 メーチェン 撮影 FUJINO T.

## 東西南北 問題解決 取組日記

### 7月×日

今年の夏から秋にかけては海外への出張が続いた。7月下旬に出かけたビルマについては、前号で既にお伝えした。ここではそれ以降を。

ビルマに続いては、タイに出かけた。これは昨年委託を受けたJICA兵庫の教師海外研修である。4月に応募し、今年も引き受けることになった。昨年よりさらに充実した内容をと、計画の中に当会研修生の村を訪ねる日程を組み込んだ。1年半ぶりの訪問となる東北、カラシン県ナクー郡で3泊4日、その後、JICAの事業もコンケンとバンコクで見学した。

村では元研修生の家に泊まり、小中高の先生、兵庫県教育委員会職員、同行取材の神戸新聞記者の総勢9人が、児童、生徒、村人との交流を行った。学校もふたつ訪ね、研修生の助けも得て授業もさせてもらった。たくさんの子どもたちを相手にする先生が、村で得た体験を授業に生かしてくださいと喜んで嬉しく思う。こういう形ならばPHD協会はODAと協働することができる。さらに『平和と健康を担う人づくり』という私たちの目的は、海外だけが対象ではない。もっと国内で教育委員会や学校とつながっていきたいと思う。

### 8月〇日

## 平和を生み出す力はどこに・・・

2005年も残すところ1ヶ月となりました。毎年、皆様からの年末募金をいただき感謝の気持ちでいっぱいです。

この程7ヶ月前にお孫さんが誕生した方より祖母としてPHD協会の活動へのご理解・ご支援のメッセージをいただきました。地道な活動を支えるのは、皆様からの善意の気持ちです。今年も活動を継続するためのお力添えをどうぞよろしく願っています。

お盆明けからフィリピンへ。ルソン島中部のヌエバ・エシーハ州へ14人で。村に入る前に名古屋のNGO「I-CAN」のスタッフに案内してもらい、パヤタスのゴミの廃棄場に住む人々の生活と支援活動を見学した。こちらの旅は兵庫県立篠山風鳴高校インターアクトの生徒さん5人と先生に大学生と若い人中心の構成。研修生の村ガバルドンでは、昨年秋の台風で家を失った人々への支援活動も見学できた。

高校生は訪ねたふたつの学校で手品で場を和ませた後、虫歯予防の紙芝居をタガログ語で披露し、大好評。3月に帰国したハイディさんが中心にすすめる大豆加工の一環の豆乳を試飲させてもらう等、様々な形の取り組みに触れる事ができた。

続いてはインドネシア、スマトラへ。こちらは少人数だったが、来年の人選も含め、山の村タベ、タラタジャランと海辺の村パシルパルーを訪ねた。既にお伝えしているとおり、パシルパルーには幸い津波の被害はなかったが、さらに北のイルバンギスに住むベディさん(88年度)のところは、膝まで水につかり女性、子どもは山に避難したそうだ。パシルパルーではアリ・ムルティムさん(87年度)が中心となり漁師による組合の活動が順調。州政府にかけあい、魚の集荷場、河口のコン

クリート岸壁、さらには製氷工場を建設してもらっている。技術だけでなく組織としてどう活動するのか、日本の漁協での研修がヒントになっている。

### 9月×日

9月下旬は北タイ、チェンマイ県の山の村ムシキーへ。一昨年から打診のあった布のグループからの研修生選考が目的。集まったメンバー17人と相談の結果、3人の子の母、ポーディーニヤさんを招くことにした。

### 10月〇日

10月下旬は関西テレビ青少年育成事業団の大学生キャンプリーダー7人の国際交流事業に協力して、東北タイ、カラシンへ。これは当初、津波被災地への慰問を兼ねスリランカで予定していた。ところが治安が不安定なことから中止となり、タイに変更。慰問の目玉として、プロの演奏家、村治進さんの指導の下、練習を重ねたスチールパンの演奏を村のお祭り、学校で行い、大喝采。

25年にわたって築いてきたアジアの村との関係が、村の皆さんに対してだけでなく、日本から訪ねる人々に多くを与えてくれている。これも平和と健康を担う人づくりにつながっているのだと思う。

総主事代行 藤野達也

今年ほど「平和」について考えるために、立ち止まることの多い一年はこれまでになかった。家の玄関をあけたとたん、飛び込んでくる赤ん坊の泣き声、そして、抱きしめると泣き止んで、見せる、とびっきりの笑顔。そんな瞬間にも戦争やテロのニュースが間断なくテレビから流れ続ける。赤ん坊の笑顔を見つめながら、胸がその度に熱くなる。

この子が育つとき、あるいは親の手を離れて羽ばたいていくとき、取り囲む世

界は果たして賢明な道筋を見出し出ているのだろうか。地味ではあってもPHD協会の進める草の根の人々の交流が平和をもたらす力を持っていることを確信するのは、そんな瞬間だ。人々が出会う、お互いを理解しようと努力する、自分にできることは何か、分かち合いたいという小さな灯火が人々の胸に灯る。これこそが平和な世界そのものではないだろうか。今後も活動を粘り強く続けていけることを心より願うばかりだ。

## 夏のスタディツアー報告

夏から秋にかけて、今年は5つのツアーを行いました。今回は、フィリピン・インドネシア参加者の報告をお届けします。

今後のツアーの予定は  
12月23日～1月2日 北タイ カレンの村  
06年3月18日～25日 パプア・ニューギニア

### ◆フィリピン マチで思うこと

佐藤雅美(教員・愛知県)

マニラで泊まったエルミタ地区は、10年前に訪ねた時にくらべ、ずいぶん賑やかになった。飲食店やコンビニが進出して活気が出てきたようだ。建設中のビルも目に付く。もっとも金の無い者には飲食店やコンビニも店内には用は無い。用があるのは店から出るゴミだ。それと金を恵んでくれたり、物を買ってくれる優しい日本人だ。朝散歩すると道端のごみをあさる人を見かける。缶やペットボトルはこの段階でゴミではなくなる。後で訪ねたゴミ捨て場、パヤタスまでいかないのだ。

### 会話の本を通して

喜多川直子(教員・兵庫県篠山市)

村でお世話になったイサベルさんに「ナオコサン、オカネモチ？」と尋ねられた時、「Hindi(ちがうよ)」としか答えられなかった。彼女から見れば、日本から飛行機でやってきた私はお金持ちにちがいない。「ワシ、ビンボウ」と言いながら、自分たちにできる最大限のもてなしをしてくれたイザベルさん一家。その眼は貧乏であることを恥じてはおらず、自分達の置かれている状況をありのまま受け入れ、懸命に生きている眼だった。

### 村で思ったこと

藤田英之(教員・神戸市)

泊めてもらったサミーさんの所は3世代が同居しています。子供だけで24人いました。サミーさんの妹がマニラで小学校の先生をしていると聞きました。難しい試験に受かった就職で、一家の自慢のようでした。村の若者の多くがマニラへ働きに行きたがるのだ

そうです。それは現金収入が入るからだそうです。

でもサミーさんはこの村で頑張ると言っていました。村のGBPのメンバーは無給のボランティアで活動しているとのこと。都会に出て行くのではなく、村に根を張って、生活を良くしていこうとしているメンバーには頭が下がります。



すっかり村に馴染んだ魚井さん、村上さん。

### つらかったこと

村上友香(大学生・大阪府)

村に行く途中、バスターミナルの食堂での昼食は複雑な思いでいっぱいだった。注文を待っている間、物乞いをされたり、食べている間もその人達がそばにいたり。お金をあげることも考えられど、その時のみの援助を行っても継続性が無ければ、かえってその人達を苦しめることになるだけだと思った。

ヨリーさん(93年・短期)と村長さん宅を訪問した際に、戦争の話になり、そのことに対する無知を実感させられ、早くヨリーさんの家に帰りたい思いでいっぱいになった。

### 帰国後・・・

魚井佐恵子(大学生・大阪府)

ツアーで見たり聞いたりしたことを数人の友達に話した。すると「かわいそうだった?」「その子達かわいそう」と言われた。私は驚いたし、すぐに否

定した。このツアーでかわいそうだと思うことなんてない。かわいそうだという同情の言葉を使うことは、その人達と同じ目線で物事を見られていないということだ。フィリピンで経験し、学んだことをそのまま伝えることの難しさを改めて感じた。

### ◆インドネシア バンドラの箱

井之上仁(生協職員・神戸市)

村にはゴミの問題、ちびっ子たちの虫歯の問題、農業や肥料、水の問題、村には急激なスピードで新しいもの(文化)が流れ込んできたゆえの弊害の発生があらこちらに見られます。まさに日本が数十年かけて問題を解決しながら歩んできたものをわずかの間に吸収しようとしている、そのための弊害が一気に押し寄せているかのように見えました。あけてはならないものをあけてしまったがための弊害・・・まるでバンドラの箱のようなそんな感じの印象を村に受けました。

PHDでの研修は日本で技術を学ぶだけではなく、日本がかつて(現在も)かかえてきた問題についても学習する機会があるとのこと。先進的な技術や考え方だけでなく、それに併発する問題や考え方などバランスのよい知識を吸収し、村のために尽くしてもらいたいものです。国際協力って入り方とその姿勢ってかなり難しいかも。



村での歓迎会で芸がなくて大ピンチ。

日本の暑い夏も乗り越え、研修も半年を過ぎいよいよ後半がスタートしました。積極的に自分のテーマに向かって研修をこなし、日本各地で学んでいる彼らの試みをレポートします。

# 研修生レポート

8月から10月中旬までの研修・滞在先

## テーさん

大森昌也（兵庫県朝来市）  
伊藤雅秋・博文（和歌山県広川町）  
山崎住彦（調整/和歌山県有田市）  
生駒正則（調整/和歌山県有田市）  
西川則孝（愛媛県西条市）  
泉精一（愛媛県松山市）  
渋谷富喜男（兵庫県神戸市）  
石原辰雄、  
PHDひだ友の会  
（滞在・調整/岐阜県高山市）

## ロナルドさん

坂本重夫（広島県三原市）  
荒川純太郎（調整/広島県三次市）  
高木唱洋（滞在/岡山県赤磐市）  
逸見広心（調整/岡山県岡山市）  
小林勉（岡山県岡山市）  
山崎勝久（岡山県岡山市）  
岡山御津キリスト教会  
（滞在/岡山県岡山市）  
吉田元一（岡山県新見市）  
ふえろう村（兵庫県小野市）  
寺田まさふみ（兵庫県豊岡市）

## マスラルさん

寺岡浩一郎（広島県北広島町）  
日高久志（調整/島根県邑南町）  
JA広島北部大朝農機センター  
中川克敏（島根県川本町）  
白浜松喜（島根県弥栄村）  
円谷利行（兵庫県篠山市）  
中村一日郎（兵庫県宍粟市）  
田中とみ奈（同市）  
牛尾武博（兵庫県市川町）

<敬称略>

テーさん（タウンティンテー）  
ビルマ・男性・33才



和歌山のみかん農家で間引き作業中。

大森さん宅では一味違った日本の生活を体験。豚糞を利用したバイオガス作りは良い経験になりました。

初の兵庫県外の研修は和歌山のみかん農家。テーさんが国で栽培しているマンゴーやプラムにも活かせるような技術をみかん栽培を通して見つける事ができたようです。

西川さん宅では小学校での交流会で地元の新新聞社の取材を受けたり、ラジオ番組にも参加したりと、農作業以外にもいろいろな経験が出来ました。

愛媛県では引き続き、松山沖の中島で柑橘類の栽培をしている泉さん宅で

研修を行いました。土着菌採りから土着菌を利用した堆肥作りや、自然のものを利用した散布用肥料の作り方など学ぶことができ、テーさん自身非常に得るものが多かったようです。

9月下旬から10月にかけて一週間足らずでしたが、最初の研修でお世話になった渋谷さん宅で再度研修を行い、春と秋の畑の違いを観察しました。

10月の高山での研修では、多くの方にお世話になりました。味噌作りを見学したり、複合経営を行っている農家のお宅で作業を行ったり、ポカシ肥作りをしたりと、とても充実した10日間となりました。

ロナルドさん（ロナルド・ザモラ・モラレス）  
フィリピン・男性・27才



白菜を植培しています。

坂本さん宅はあちこちから研修生を受け入れており、研修生とのコミュニケーションにも慣れていきます。ここでは土着菌や落ち葉、鶏糞等を使ったポカシ作りを経験。また、葉面散布についても説明を受け、新しい技術も勉強できたようです。

次は岡山に移動。小林さん宅では野菜周りの夏の作業をすると共に、竹炭作りの見学もしました。

山崎さん宅は数日間の滞在でしたが、管理機を使ったりうね上げなどを行いました。

吉田さん宅では田植えの時期から夏にかけて田んぼで活躍してくれた合鴨の処理の現場を見学。岡山での研修を全日程終えました。

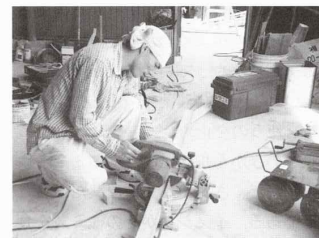
ふえろう村では豚肉加工の勉強を希望しておりましたが、残念ながら加工日との調整が合わず、出来ませんでした。しかしその分、ふえろう村の活動を一緒に体験することで、社会勉強にもなりました。

寺田さん宅は二度目です。稲刈りの時期に日程を合わせたのは本人の以前からの希望であった、米の収穫について学ぶためです。今回は機械作業による稲の収穫、乾燥、調整、出荷、及び貯蔵を学びました。

◎マスラルさんのここに注目！！

マスラルさんの国、インドネシアでは「ラマダン」と呼ばれる断食月があります。今年は10/5～11/2でした。すべての欲望から離れ心身を清めることと富める者も貧しい者も神の前で共に苦しさを体験するという意味が込められているそうです。

マスラルさん（マスラル・アリソン）  
インドネシア・男性・31才



もみを乾燥させる所を作っています。

と野菜の出荷に関する一連の作業を行い、また、販売先を訪問することによって、日本ではどのような過程を経て野菜が販売されているのを見ることができました。

白浜さん宅ではハウスのビニール張りも経験しました。

9月は兵庫県内に戻り研修でした。円谷さん宅ではくん炭作りと利用法を学びました。また、有機農業グループとの集まりにも出席しました。

中村さん、田中さん宅では本人のもう一つの希望である大工仕事を体験。製材所や貯木場なども見学し、今までとは違う日本の環境も勉強できました。

10月は、以前お世話になった牛尾さん宅で再度研修を行いました。季節による畑の違いを比較することができました。

8月の最初の研修は自家栽培の米を使って、様々な加工品を作り販売をしようという強い思いが湧き上がってきました。私が現役として働ける

次は島根に移って研修でした。中川さん宅では収穫、調整、袋詰め、販売

## 帰国研修生短信

### ーインドネシアー

#### ▼ペディさん（88年）

スマトラ沖地震の影響もあるのか経営する食堂のお客さんが減っており、漢方薬の材料栽培を検討しています。

#### ▼ダスウィルさん（99年）

農業に加え人口調査の仕事も。道路整備や果樹の苗のことで、郡から支援を引き出すため役です。



#### ▲アフリタさん（05年）

料理（栄養）のことから周りの人へ伝え始めています。ミンで村の人へも服を作り、皆に喜ばれています。

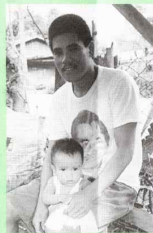
#### ▼ミミさん（02年）

洋裁を教えています。ラマダンがあげると洋服の注文も増えるそうです。山水を引いての水道が通り、これからは道路の整備を村人と進めていくそうです。

#### ーフィリピンー

#### ▼サミーさん（05年短期）

米を栽培し一回の収穫で25袋とれ、販売もしています。豚小屋を建て豚肉加工などの計画もあります。



#### ▲ミノさん（96年）と甥っ子さん

5人の子供に恵まれています。米を中心にオクラや豆を栽培し地道な活動を続けています。



#### ▲ハイディさん（05年）

3月に帰国しGBPのメンバーとして日本で学んだ栄養のことを活かして頑張っています。大豆加工が目下のテーマです。

## 第10期国内研修生



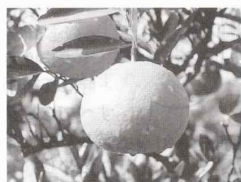
坂本由美さん

京都で福祉の仕事を生年長していましたが、50代を目前にして一仕事は生き方、自分を裏切らない仕事や生活をしようという強い思いが湧き上がってきました。私が現役として働ける

時間は、もうそんなに残されていない、迷っている暇はないんだと思いがついたら、高校生の頃、学校をやめてでもやりたいと切望していた「国際協力」のセミナーや本を手当たり次第探し回っていました。

そんなおり、大阪YMCAで藤野さんの講義を聴く機会に恵まれ「この人だ！」と思いました。自らの足元の生活や日本の社会をしっかりと見据えながら、世界へ身投げするのではなく、地道に自らの生活の拠点を腰をすえて地球市民としての気の遠くなるようなテーマに取り組んでおられる事を感じました。国内研修生として多くの事を学ばせて頂きたいと思っております。

同じ買うなら、使うなら  
 NO.2 水保のみかん



みかん作り歴50年以上のベテラン。水保のみかんさん・ぎんさんと親しまれるゆりちゃん・えいちゃんが真心をこめて育てたみかんです。これから水保の豊かな大地の恵みを受けたおいしいみかんをお届けします。

水保病センター相思社では水保病を伝える活動の一環として水保の低農薬みかんを販売している。なぜだろうか。チッソが毒を流した。不知火海は犯され、魚が汚染された。その魚を食べた漁師は水保病になった。海に抛って生きていた漁民は、漁で生計をたてることができなくなり、仕方がなく陸に上がりみかんを作り始めた。

しかし、不慣れなみかん作りは失敗の連続。とりあえず農薬をたくさん使う慣行農法で始めたが、水保病で弱っ

水保のみかんは、市販の甘いだけのみかんとはひと味違います。みかんのおいしさとは、適度な酸味と甘みとほのかな苦みのバランスです。

た体に農業はきつかった。実際に農業散布中に死んでしまった人もいる。なにより、海の近くでみかんを作っていたために、農薬や化学肥料がそのまま流れ込むのがよくわかった。「これではチッソとやっていることが同じだ」ということで、農薬を減らし、化学肥料を使うのを止めた。

今のみかん畑にはクモやミズや微生物がたくさんいる。低農薬だからこそである。イノシシがそのミズを食べに来る。ついでにみかんも食べる。毎年かなりの被害がでるが、「シシも山に餌がないから里にやってくる。お

つどま（私）のみかんは美味しかけんシシにも人気たい」と笑い飛ばしている。

一般的には害獣と呼ばれるイノシシも一緒に生きる仲間。環境なんていう洒落た言葉は知らないけど、海や土、そこに生きる命と共に生きている。

水保病が伝えるのは被害だけではなく。「水保だからこそ安心・安全なみかん作り」。今年のコタツのお供に水保が濃縮されたみかんはいかがですか。

8期国内研修生・相思社職員 坂西卓郎

わしらも長生きするばってん、あんたらのみかん食って長生きしんしやい!



田上百合子さん (77才) 田上英子さん (75才)

お問合せ先：(財)水保病センター相思社  
 住所：〒867-0034 熊本県水保市袋34  
 電話番号：0966-63-5800  
 ホームページ：http://www.soshisha.org

私の訪問記 VOL.3 インターン生も中・高生とワークショップ

8月からは、新たに2人の大学生、関西国際大学・鶴川久実さん、関西大学・黄地和也さんがインターンとしてPHD協会で研修を行いました。

今回、9月24日の大阪府枚方市の啓光学園での交流会に参加してもらったのは、鶴川久実さんと6月からのインターン生、風浦慧子さん（龍谷大学）。ラグビーで全国的に有名な啓光学園は、国際的な人材を育てるための試みを積極的に進めており多くの生徒さんにPHD協会の活動を紹介し、研修生の村の事情を知ってもらうきっかけとなりました。鶴川さんにその報告をしてもらいました。



左側から風浦さん、ロナルドさん、マスラルさん、鶴川さん、テーさん、野村先生

今回のインターンシップ中、大阪府枚方市にある啓光学園に同行させてもらいました。内容としては、PHD協会・研修生の活動内容の紹介、研修生の村の問題の解決策を考えるというものでした。私たちのグループはマスラルさんの国、インドネシアについて考えました。中学生・高校生に楽しみながら考えてもらえるような内容にしようとして、私たちのグループはクイズを取り入れました。職員の佐藤さんやマスラルさんと一緒にクイズの問題を作ったり、絵を描いたりして準備をしていきました。

当日、自己紹介をした後、テーさん・マスラルさん・ロナルドさんの村の紹介をし、そして各グループに分かれてのワークショップに取りかかりました。はじめは理解し難かったのか、なかなかグル

ープワークが進みませんでした。しかしそれをつかの間、慣れてくると、どんどんアイデアを出してくれました。マスラルさんも、生徒たちが考えた解決策の中で実践できそうなものを見つけてきたようです。クイズも大成功でした！

その後には立食パーティーを開いて頂きました。グループワークをしているときにはあまり話さなかった生徒も、その時にはたくさん話をしてくれました。「研修生と話をするときに何語を使うか」、「ホームステイは楽しいか」など、研修生の生活に興味を持ってくれたようです。

私のインターンシップは終わりましたが、この啓光学園訪問で、普段できない体験ができてとてもよかったです。これを機に、一人でも多くの生徒さんが国際協力・交流に興味を持ってくれたらと思います。

マスラルさん、小学校で交流会

9月27日、兵庫県宍粟市山崎町伊水小学校を研修中のマスラルさんが訪ねました。マスラルさんはスライドを通して村を紹介し、5年生（15人）のみんなが、インドネシアの料理や言葉について調べたことを発表してくれました。

たくさん質問が出され、「マスラルさんの好きなスポーツは？」という問いに「サッカーとバドミントン。」と答えると、放課後は急速サッカー大会となりました。



「被爆・終戦60年記念イベント」参加



9月17日、神戸市でコープこうべ主催の標記行事に職員、インターン、ボランティアさんとして参加。

平和を担う人づくりの具体例として、北タイの女性グループへの支援活動を紹介しました。

ガールスカウトの街頭募金

今年も兵庫県加古川市のガールスカウト兵庫第24団からお招きをいただき、9月11日にロナルドさん、マスラルさんが出かけました。

研修生はスライドを通して村の生活を紹介、研修の必要を説明。おにぎり

3個を持ちよりひとつは誰かのために備えるガールスカウト式の昼食で、その精神を学びました。その後、団の皆さんは二手に分れて街頭募金をしていただきました。感謝です。

PHD NEWS

◆会費・ご寄附寄託情報

2005年8月	106件	1,300,239円
2005年9月	68件	1,047,329円
	174件	2,347,568円

上記の通り、多くの皆様よりご浄財を頂きました。心より感謝申し上げます。今年も年末募金を迎えます。PHD活動推進のため皆様のあたたかいご協力をお願いいたします。

◆多額のご協力で感謝します

兵庫県高砂市での研修の折にお世話いただいている方を通じ、匿名の方から遺産の一部をご寄付いただきました。十分に学ぶことができない人たちへの

支援にとのこと、大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

◆本当にありがとうございました

今年のロナルドさんをはじめ多くの農業研修生がお世話になり、またフィリピン、ネグロスにもお出かけいただいた兵庫県氷上市市島町の一色作郎さんが9月11日、お亡くなりになりました。これまでの有機農業のご指導にあらためてのお礼と、心よりお悔やみを申し上げます。

◆今年のTシャツはオーガニック！

オリジナルの長袖Tシャツをオーガニック（有機栽培）コットンで作りました。米国サイズのSML、色は白黒紺の3色。2,800円でひとまず限定43枚。

編集後記

今回の記事で取り上げた相思社は、水保病を広く伝える活動を行っています。今でこそ環境問題への取り組みが盛んではありますが、かつて水保市は公害を象

徴する街でした。戦後日本の経済発展の裏で起きていたその歴史を世界に伝え、同様の悲劇を繰り返さないよう訴えることもまた、ひとつの国際協力と言えるのではないのでしょうか。㊦

◆研修生帰国報告会

1年の研修を終えて帰国する研修生の報告会は3月11日（土）午後1時に神戸市内で予定。詳しくはお尋ね下さい。

◆写真のアルバム、ありませんか？

研修写真を整理するためのポケットアルバムの余分がもしあればお譲りください。

PHD会員制度のご案内

終身維持会員：	1口10万円（任意の口数）
PHD会員：	年額 1口5千円（任意の口数）
友の会会員：	年額 1口千円以上任意の額

当会は特定公益増進法人です。ご寄附に対する免税の特典

当法人は特定公益増進法人としての認定を受けていますので、ご寄附に対する下記のような特典があります。

寄附者が個人の場合  
 寄附金合計額（所得金額の25%未満）マイナス1万円が寄附金控除額（所得総額から控除できる額）となります。  
 （例）1000万円の所得の人が250万円を寄附されると249万円の寄附金控除。

寄附者が法人の場合  
 寄附金合計額が一般寄附金算入限度額の2倍未満までが損金扱いとなります。  
 （例）基本金100万円で、その年の所得が3億円で1年決算の会社の寄附金の損金算入額が1000万円未満まで（一般で4500万円）。

郵便振替口座  
 01110-6-29688  
 財団法人ピー・エイチ・ディー協会

## 第24期生 ホストファミリー募集!

2006年4月に来日予定の研修生の神戸近辺での滞在家庭を募集しています。

スーステインさん  
(ビルマ・27才・女性)



ポーディーニャさん  
(タイ・37才・女性)



スリヤブットラさん  
(インドネシア・22才・男性)



期間：2006年から1年間。来日後最初の6週間は毎日。以降、月平均7日程度。

希望滞在場所：神戸三宮まで1時間程度で通える範囲。

経費：当会規程による食費、滞在費をお支払いします。詳しくは、お問合せください。

新規会員・寄付者ご芳名  
は、個人情報保護のため  
掲載しておりません。

## ○月×日のPHD協会

**職員 高垣** 研修生の農業研修に同行し、各地の農家を訪ね、お話を聞く。卵の黄身の色が濃いのはエサの材料次第。栄養分にはあまり意味なし、へえー。

**職員 佐藤** スマトラへ出張。村の夜は交流会。村人は歌に踊りに高レベル。こちらは「幸せなら手をたたこう」一本やり。次回は是非玉乗り、綱渡りでも。

**職員 藤野** 東北タイの農村で早朝、肩口の痛みで目覚める。Tシャツをはたくとポトリとサソリ! 「日本の人の味見がしたかったのかも」と研修生。

**国内研修生 坂本** テーさんに同行し農業体験。35年ぶりのたんぼにちょっと興奮。作業を忘れ、好きな蛙を追いかける。そんなご趣味があったとは。

**職員 佐々木** 遅ればせの夏休みでバングラデシュへ1週間。休暇終わって出勤すると高熱、下痢で寝こみ1週間。合計2週間のお休みでリフレッシュ。

**職員 因幡** イスラムのマスラルさんは豚を食べない。牛を育てているテーさんは牛を食べない。見た目では鶏が食べられない。三人揃うとややこしい。

(事務所の机が整理整頓できている順)



良いお年をお迎え下さい。  
2006年が素晴らしい年になりますように。

ロータスクーポン・グリーンスタンプ・  
ブルーチップ

協力者ご芳名 (敬称略)  
2005年8月1日～10月15日

<愛知県>

クリーニングのベル  
オカダお客様有志一同

<兵庫県>

敦見昌弘



ロータスクーポン  
小野田 弘之  
麦 踏 伊都子  
<長崎県>  
戸村 信子

その他 (寄贈/外貨コイン等)

協力者ご芳名 (敬称略)  
2005年8月1日～10月15日

<大阪府>

(財) 大同生命  
国際文化基金

<兵庫県>

岡崎 茂 邦  
丸山悦司・陽子  
福西 麻 美

~再生紙を使用しています。